

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年6月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873400378		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム ひだまりの家	ユニット名	2階
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1086-1		
自己評価作成日	平成28年1月19日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=tue&JigyosyoCd=0873400378-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年3月15日	評価機関 決 済 日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな所にあり、納涼祭(昨年は秋祭り)では近隣の方たちに参加して頂いたり、行事等でもボランティアで来て頂くなどして地域の方々と交流している。また日頃より近所の方には、お花や野菜を頂くなど、入居者の方々、スタッフも季節を感じることができている。施設内においては一人一人に寄り添う介護を心がけ、明るく、笑顔が満ちあふれている雰囲気である。ご家族の方も気軽に来られ他の入居者様とお話されていかれる。毎月の行事に力をいれており、また気候の良い時には外出したりと、のびのびとした自由な空間を提供している。また医療面において、看護師間の連携が良く毎日の充実したケアが行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は四季折々を身近に感じることができる、自然豊かな場所に立地している。
隣接する土地の所有者が、利用者が楽しめるようにと、事業所前の土手に季節の花をたくさん植えてくれるなど、近隣住民と良好な関係を築いている。
認知症ケア専門士でもある施設長を含め、3名の看護職員が利用者の健康管理に努めている。
職員間のコミュニケーションが良く、職員は笑顔で利用者を支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で唱和をし経営理念をもとに、実践につなげている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の納涼祭(去年は秋祭り)では近隣の方々に参加を得ており子供たちも出演者として参加して頂いた。町内のお祭りや運動会にも招待され毎年出かけている。日頃より散歩の際に(近所の方と馴染みの仲だったり)交流をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で現状報告をし、その説明をしながら地域の方々に認知症への理解を求めている。また施設長が認知症サーポーターの講師とし地域の方々に認知症についての知識と理解を広めている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回、行事の報告、現在の入居状況などを報告し、そこででた意見は日頃のサービスに活かしている。去年は入居者が出てしまった時の対応や、災害対策(防火水槽を設置した)、脱水(去年の猛暑で)、介護保険の改正などが話があがった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に出席する市の担当者の方に入所希望の衣類や市内の現状を訊いたり、介護保険に関する質問をして関係を築いている。また市が主催する研修会にも意欲的に参加し見聞を広めるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束について学び、極力、身体拘束をしないケアにむけて取り組んでいる。やむを得ない場合、運営基準で定められている身体拘束に関する条件を満たしているかを判定し、経過を記録するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これも社内研修にて学びあい、どういうことが虐待なのかを各スタッフが知り、注意をはらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者様に対してはそのような制度を利用している。日常生活自立支援についての知識や成年後見年制度について学ぶ機会を得ているのでスタッフに知識を広めてもらえるよう研修に参加してもらっている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設長や看護師の説明のもと、納得したうえで入居、退去の手続きをおこなっている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置してあるが、ご家族様などは遠慮もあつてか、余り意見が頂けないので、面会に来た際にこちらから現状をお話しし、（医療面については看護師から詳しく話してもらう）お茶を飲みリラックスした雰囲気の中で意見や要望を訊きだしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや日々の朝礼で職員の意見を聞いている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、1年間のそれぞれの勤務実績（出勤日数、勤務態度等）を把握し、勤勉なスタッフには表彰を行っている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行なえる様に年間の研修項目を決めているが、実行出来ない月もある。法人内外の研修にも意欲的に取り組み研修の成果を上げている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	常陸太田市連絡協議会などを通じて、勉強会などに参加している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後、慣れるまでご本人やご家族と出来るだけ関わりを持つ様にし、不安なことはないか、要望等を聞きだしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴を聞きながら本人にとって、より良い生活が出来る様心掛けている。また情報が不足があればご家族からの聞き取りも行き、繋げている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、施設長と看護師を交えて話し合い、ご本人の思いを考え、より良いサービスが受けられるように支援している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護という観点ではなく、共に生活するという観点から、各入居者様の視点に立ち、色々な事を感じながら仕事をしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困ったことや変わったことがあれば、ご家族様に報告、相談をしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の家族だけでなく、友人や親戚の方も来訪している。ご家族の協力を得て帰宅したり、外食など馴染みの店へ出掛けられるように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの相性や（認知の程度等、性格）その時の状態を考慮しながら関わり合いを持てるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との関係を大事にし、さまざまな面で繋がりをあえるよう心掛けている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的に利用者様一人一人の意向に沿った介護を行っている。各スタッフは日常の中でつぶやいたことを記録するようにして、それを皆で共有していくように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の今までの生活歴を把握するように努めている。それを踏まえてどのように関わりを持ったら良いのかを話し合っている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにも反映されるので把握に努め、変化があればミーティング等で話し合い今後の関わり合いのもとにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が面会に来た時は必ず声掛け、状況報告をしながら思いの共有、傾聴を心掛け、ご本人のより良い暮らしのお手伝い出来る様に、課題を管理者、スタッフで話し合いお互いの共有を持つことからケアプランに繋がるようにしている。経過観察のモニタリングも欠かせない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや朝の朝礼で情報を共有するようにしている。また気づいた事や意見等も朝礼や申し送りの際に確認し実践している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化になってきたことに伴い、ここでは出来る所の医療面に限界が見えた時に病院との連携が欠かせない。サービスの多機能化が進み、今後家族様から要望やお話しがあれば、状況を考慮しながら施設内でも看取りが行える様に準備を進めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然が豊かなので、散歩などに出かけたりしている。買い物はドライブを兼ねて車で出かけている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように、入所時には今までの経緯などを考慮しながら、かかりつけ医を決めている。またご本人と共に病院受診に行っているご家族もある。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師が全員の健康状態をチェックし、なおかつ介護職員が気づいたことは速やかにその日の看護師に伝えられている。その上で適切な医療を受けられるように支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、主に施設長が様子伺いに行き、定期的に病状の把握をしながら医療機関（先生、看護師）と連携をとっている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の終末期に向けた施設の在り方を今現在作成しているところです。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は消防訓練の際に講習を受けている。またウイルス性の感染症の対応なども看護師から講習を受け、万が一の事態に備えている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて水や懐中電灯などを備蓄している。昨年は消防団の方々に来て貰い施設内を見て貰った。前々回は消防署立ち合いの下、前回は夜間想定での訓練を行った。また、地域との協力体制は運営推進委員会で話し合いを持っているが、地域の高齢化等の問題もあり今自治体の方と連携をとっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援にあたっては利用者様の言動を否定せずに敬語で接するように心掛けている。個人情報ファイルは事務所に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ関わりを持ちながら声掛けを多くしてご本人の意向を聞きだすように心掛けている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一人一人に合ったサービスを提供出来る様に努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各入居者様の希望に沿えるように身だしなみや衣類選びに気を配って対応している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつの過程を一緒にしてもらったり、食器拭きの声かけをしたり、テーブルを拭いて貰ったり、洗濯物を干したり畳んで貰っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人、一日の水分量を記録している。飲み物にもメリハリをつけ、時には甘い物を提供して飲む楽しみにして貰っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず声掛けをして全員口腔ケアを実施している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人のケース記録に排泄チェックがあるので、それを参考に排泄パターンを把握して、対応している。必ず排泄時は見守りや一部介助を心掛け状態の把握に努めている。出来る所はやって貰うようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者様をチェックしておき、水分を勧めたり、軽い運動の声かけをしたり、それでもなかなか出ない時は下剤や浣腸を使い調節を行っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	比較的身体機能が良い入居者様が多いので、出来る限り入浴出来る日が一日でも多く、気持ち良く過ごせるように支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにマッサージチェアを置きくつろいで頂いたり、また時期に合わせて湯たんぼやエアコンを利用しながら、快適に過ごせるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のお薬が変更の時は連絡帳に書いて周知してもらったり、口頭でスタッフに申し送ったりしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月季節行事や誕生会を行い、季節感を出した支援をしている。季候の良い日は出来る限り外出支援を心掛けている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2階の入居者は歩ける方も多いため、季節ごとに外出を計画し皆が行けるように支援している。またご家族に協力を頂き定期的に外泊や外出をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には事務所で預かり、たてかえしているが本人の希望で所持し、自分の好きな時に下の自動販売機で飲み物を買ったり外出時など自由にお金が使えるように支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望があれば連絡を取って頂いている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2階は毎月カレンダーを作成したり飾り物もみんなで作成している。2階は日の光もよく入るので、自然の光を取り入れている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>2階のホールにはマッサージチェアを置いてくつろげる空間を提供している。また各居室内で気のあった入居者同士がお話をしたりしてくつろいでいる。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には以前から使っていた馴染みのものを持って来ていただくようにしている。ただ入居者によっては少し殺風景なところもあるので、少しでも家庭的な環境にちかづけるように改善していきたい。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>2階は歩ける方もいるので手すりの設置をしている。また目の見えない入居者がいるので階段からの転落防止の引き戸を設置した。（基本的には引き戸は開けている）</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない